

会 議 録

1 会議名

令和4年度第10回板倉区地域協議会

2 議題（公開・非公開の別）

○報告事項

- ・板倉保養センターとゑしんの里記念館における市及び指定管理者の収支状況等について（公開）

○協議事項

- ・地域活性化の方向性について（公開）

○自主的審議事項

- ・板倉区の未来を拓く観光について（公開）

3 開催日時

令和4年9月29日（木）午後6時00分から午後7時40分まで

4 開催場所

板倉コミュニティプラザ 201・202会議室

5 傍聴人の数

3人

6 非公開の理由

—

7 出席した者（傍聴人を除く。）の氏名（敬称略）

- ・委 員：平井達夫（会長）、古川政繁（副会長）、池田光男、小林政弘、植木節子、手塚哲夫、山本茂、西田節夫、下鳥治、田中睦夫、庄山健、秋山秀夫、吉田重夫、長藤豊
- ・事務局：板倉区総合事務所 古澤所長、一藁次長、米川次長、関根産業グループ長、市村市民生活・福祉グループ長兼教育・文化グループ長、大堀建設グループ長、小池地域振興班長、橋詰主査、福井地域おこし協力隊（以下グループ長はG長と表記）

8 発言の内容（要旨）

【米川次長】

- ・会議の開会を宣言

【平井会長】

- ・挨拶

【古澤総合事務所長】

- ・挨拶

【平井会長】

- ・条例第8条2項の規定により、半数以上の委員の出席を確認。会議の成立を報告。
- ・会議録の確認を西田委員に依頼。

4 報告事項 板倉保養センターとゑしんの里記念館における、市及び指定管理者の収支状況等について事務局からの説明を求める。

【関根産業G長】

- ・資料3、資料4に基づき説明

【平井会長】

質問、意見のある方の挙手を求める。

【庄山委員】

板倉保養センターの関係で、ゑしんの里記念館の分析結果を読ませてもらうと、特にいたくら亭についてうまくやっているということで、建物が文化財になったということをPRしていくということを考えているのか。例えばいたくら亭の中の公開事業といったものを考えているのか。

【関根産業G長】

いたくら亭の登録有形文化財指定の関係は、一つの戦略ツールとして活用していくべきと考えている。いたくら亭は、蕎麦の評判もいいので、古民家風の建物で食べる蕎麦というのも、例えば牧区の木草庵でも同じような雰囲気の中で蕎麦を楽しまれるお客様が増えているということなので、産業グループと観光公社で情報共有しながら活用を進めていきたいと考えている。

【庄山委員】

この間いたくら亭で蕎麦を食べたが、定員オーバーということでちょっと待った状況もある。文化財になったのが、どこの部分で文化財になったのか、私達素

人ではさっぱり分からない。看板みたいなのがあって、この部分で文化財になりましたとか表示してあれば分かりやすいのかなと思う。そのような考えはあるか。

【関根産業G長】

今後、登録有形文化財としてPRしていくことは観光公社から聞いている。

【池田委員】

やすらぎ荘でイベントをやったり努力しても、あまり区内の人は行く気になっていない。来る人を待っていても、一向に数字が変わらないと思う。最初の出来たころはみんな足を運んでいたが、最近は魅力がないのか、お客さんが増えない。風呂の券を強制的に各集落に何枚か引き受けてもらうという方法は取れないのか。いろいろやっても、産業グループの人や地元の人も努力しているのだが、お客さんが足を運ばない。今はコロナの時期だからなおさらそうかもしれないが、コロナが落ち着いた後どのくらい本当に行く気になるかというところだ。意識を変えないとうまくいかないのではないか。

【古澤総合事務所長】

以前に、Jーホールディングスの解散、今後の在り方について説明させていただいたが、Jーホールディングスの今あるものがなくなって最終的には4つ残っている状況。その中の一つとして板倉保養センターがある。今後、今年度中にJーホールディングスが解散して、新たなJーホールディングスの内容のもの、4つの会社を1つにする、そういう方針で動いているが、そういった中で、Jーホールディングス側としても施設の中の状況を確認して、今の事業の中身をみて、利益につながっているのがどれだけあるのか、効率の悪いものがどれだけあるのか、また集客についてはどのようにしたらいいのかというところを今検討しているところである。そういった中で、体制も含めて検討しているという話も聞いているので、そういったことを考慮すると、今の委員の意見も貴重な意見として施設側には伝えたいと思うし、まず地域の皆さんから足を運んでいただくような方策を対応していくというところについても、しっかりと会社側と話をしながら進めていきたいと思う。

【小林委員】

存続に向けて努力をしているのは分かるし、期待もしているが、建物自体、機器、備品関係が非常に劣化し古くなっている。減価償却とか修繕の関係について、いつまでも市から補填できるわけではないと思うが、修繕料の中に毎年積み立てて、それに備えるようなかたちをとっているのか。

【関根産業G長】

予算として、老朽化等による箇所について更新していく計画は立ててある。ただ、財政的な事情もあり延期となる場合もあるが、緊急性による早急な対応も行っている。本日配布した資料の中で、板倉保養センターについての修繕料は年間約200万円であり、箇所別修繕のほか、突発的な修繕は予算を流用して対応することで、できる限り休館がないようにしているのでご理解いただきたい。

【平井会長】

他にないか。

(意見なし)

次に、5 協議事項 地域活性化の方向性について事務局の説明を求める。

【小池地域振興班長】

・資料1に基づき説明。

地域活性化の方向性については、地域協議会が作成することになっている。アンケートをとった結果や各地区の意見交換会の内容などをふまえ、事務局で案を作成した。これについて意見交換を行っていただき、地域協議会としてまとめていただきたい。

【平井会長】

質問、意見のある方の挙手を求める。

【庄山委員】

地域ビジョン、一番最後の板倉区の活性化に向けてということで、板倉の豊かな自然や文化ということを謳っているがこのままでいいという気がしている。

【平井会長】

今庄山委員から意見があったが、皆さんの方から意見を出していただくということで案内がいていると思う。一言ずつお願いしたいと思う。

まず池田委員からお願いしたい。

【池田委員】

ゑしんの里記念館で毎月第4土曜日に行う特産品販売について、私も春から3回くらい顔を出したりしているが、この前フリーマーケットが開催される予定であったが中止になった。方向性としてはいいと思った。フリーマーケットをやったりキッチンカーを連れてきたり、盛大にやったらどうか。それから、マルシェを針の中心街でやったら活性化されるかなとか、最近関田峠にツーリングに来る人が結構多いので、看板を立てたりして、11月のふれあいまつりの時に自転車レースをしたりしたら活性化すると思った。

【小林委員】

連絡協議会との意見交換とか、先回のゑしんの里観光公社、まちづくり振興会、夢創會の皆さんとの意見交換会で各団体が板倉区のために先導的な役割を果たしていることは皆さん承知のとおりだが、そこで生まれた課題というのが、私も先回の意見交換会を聞いて、それぞれ課題はあるけれど共通するところはかなりあるので、これをもう少し整理をしてやった方が組織的にしっかりとできるのではないかというふうに思う。それと、板倉に住んでいれば自然環境とか、あるいは歴史観とか文化とかある程度は特異なことは共有されていると思う。問題は、地域の活性化に向けて具体的にこれからどうするかという展開の部分に入ると非常に課題が多いなと考える。例えば、この前もゑしんの里観光公社が言っていたが、板倉で誇れるのはゑしんの里と光ヶ原だと。私も同感だが、もうちょっとゑしんの里、これも板倉町時代に確かゑしんの里づくりということで20年以上前に交流人口を増やそうということで、ゑしんの里を中心に地域づくり、地域振興していきましょうという、確かそういった話を聞いていたが、全然それ以降は進んでいなかった。どこかが核となるようなものをきちんと整備をして、そこから板倉特有の文化遺産を発信するとか、あるいはそばとか農産物、特産物の拡大のためのPRをしていけばいいと思う。ただ、社会環境が大きく変わっており、少子高齢化とか人口減少という大きな変化に対し、これからどのように活性化を図っていくか、若い人がいないわけであるから、その辺を十分考えていかなければならないと思うし、各地区の意見交換会でも出されていたが、集落を維持していくために隣接の集落同士の相互協力体制づくりとかそういうのも大きな課

題だといわれているわけなので、そういったのにも含めてどう対応していくかそれをもとにこれからどのように活性化を図っていけばいいのか、十分検討して行かなければならないと思う。事務局の方で構成要素を上げているが、これから取り組むにあたっては優先順位を付けたかたちで、何を板倉として取り組んでいくか、その辺はこれから皆さんと話を進めていった方がいいのではないかと思います。当然、絵に描いた餅とならないよう、しっかりと方向性を出していくには組織という土台をしっかりと固めていく必要があるのではないかと、先回の意見交換会でもつくづくそう思ったので、ふしんの里観光公社、まちづくり振興会、夢創會の皆さんと十分今後とも意見交換をしながら進めていければと思う。

【植木委員】

関田に登っていくと、関田に入る所の分かれ道のところに人形がある。あれが板倉の昔からある人形なのだが、あの人形を見るたびにここの田舎ちょっと遅れているよなといつも思う。誰も思わないだろうか。やはり、歩いて何かを感じ、五感を研ぎ澄ませてもらいたいと思う。今日行ったお宅の人が、そば畑を光ヶ原に見に行ったのだが、この間の台風で花が全部ないと、結構PRは良かったのだけれど花は何もなくて子どもを連れて行ったけど少し寂しかったということであった。私もこの間ふしんの里記念館に友達を連れて行ってきたが、とても素敵な場所が板倉にあると感動していた。ただ、食事をしたら、きのこ汁が500円なので珍しいし食べていこうとなって食べたが、量が少なくその次また他の店に食べに行った。やはり、もうちょっと小洒落て弁当形式にしたりとか、素敵にしてほしい。やはりそこも五感。それからいたくら亭は食べに行ったら、外でたくさんの方が待っていた。場所が狭いのか、中の従業員が少ないのか、もっと効率よくできないのかという印象を受けた。

【手塚委員】

今植木委員の方から話もあったが、地域的かつ時期的な限定の話になるかもしれないが、寺野地区の柄山の方では休耕田を利用してそば団地を作っている。光ヶ原の方に行けばそばを作っているのだから、寺野の方から関田の方へそばを見ながら行って、筒方の方でそばを食べる。また逆に、筒方の方から寺野の方に向かってきて、寺野の方でそばを食べるというようなかたちもあっていいと思う。

【山本委員】

活性化の方向性だが、事務局の方で提案していただいた内容及び構成要素でいいと思う。圧倒的に情報の発信が少なすぎると思う。具体的なことになるが、インスタグラム、ツイッターその他SNSで探してもあまり出てこない。一番出てくるのはラーメン屋とジェラート屋。その次にスーパー。全体像としては事務局の提案でいいと思うが、具体的なものといえはいわゆる映えるネタをひたすら写真で撮って毎日上げる、こういうことが必要なのではないか。私は、ラーメンのブログを書いていたことがあるが、一日も切らさずどんなことでもいいからラーメンに絡むネタを書き続けていたらどんどん閲覧者が増えていって、その後止めたのだからある時に使っていたブログの名前をちょっと言ったら、あなたなんですかと言ってくださる方がいらっしやった。なので、そういうような情報発信のかたち、そういうものを今提案していただいた中身と組み合わせて運営していく、誰がやるかは分からないが、そういう組織が必要なのではないか。

【西田委員】

事務局で考えた7つは数が多すぎるのではないか。4つか5つくらいにした方がよい。私が今までに板倉おもてなしの会を作って、観光について、いろいろあちこち飛んで歩いて勉強させていただいた。長野県のある施設は、館長をはじめ従業員全部が都会からの移住者で、同級生とか知り合いとかに手紙や電話でお願いして来ていただいている。これはいいことだと思って、やはり地元だけではなくやはり都会とかから来ていただいてその人達から、自分たちの同級生、友達、親戚とかに電話をかけて、手紙を出したりして来ていただいている。やっぱりこのくらいしないとなかなか地元だけでは、「上越市の皆さんよく分かっているけど来てください」というのはなかなかそうはいかない。そこら中に施設があるわけだ。私もあちこち、頸城とか、三和とか吉川の山の方へ行ってみようとしたが、そう変わりはない。山から直江津方面を見ますとそう変わりはない。だから、何か特徴を持たさないとなかなか人も集まってこない。これから行政とまちづくり振興会、夢創會、こういう人たちと話を一緒に議論しないと、なかなかものになっていかないのではないか。その中に商工会を入れてやった方が、来ていただければ帰りに商工会、お店に寄ったりするわけだから商工会の人も入れ

て議論して欲しい。あとは皆さんが言われたとおりでいいと思う。

【下鳥委員】

2点ほど意見を述べさせていただく。まず第1点、アンケートの中にも私は書いたが、ふしんの里の販促についてその拡充を図ったらどうかと思う。今現在、秋真ただ中で、私の近所の高齢者がいろいろな野菜を作っている。なす、きゅうり、オクラ、とても綺麗な花を作っている方もいらっしゃる。そういったものは不揃いでもあるし、形もよくないと思う。でも、そういうものを野菜高騰の中で、半額セールとでもいうか、そのようなかたちで皆さんに提供出来たら、高齢者の小遣い稼ぎにもなるのではないか。2点目としては、ラッピングバスの件で、確かに「いたくらけいと」が今大きく張り上げられて町内を走っているわけだが、まだ、白い部分がいっぱいある。その辺のところを小学生あるいは中学生の方々からいろいろデザインしていただいて、もっともっと貼り込んでいったら楽しいバスになるのではないかとそのように考えている。

【田中委員】

事務局でこれだけ用意していただいて、最後の案の中に7項目あり、私はこの中から具体的にこんなのはどうかというのを皆さんから個々に発表するのかなというように考えていたのだが、でするので項目が多いとか少ないとかは全然問題ないし、この中から私としては真ん中にある子どもたちに板倉を愛する心を育てるというところに重点を置いて取り組んでみたらどうかというところで、子ども達による板倉再発見の企画というように考えてみた。子どもたちというのは小中学校主体に、「いたくらけいと」の取り組みではないが、子どもたちが何を考えるのかというところを吸い上げて、商品なり品物を用意して、参加してもらおう。具体的には、板倉1日体験ツアーというものを企画して、歩いて回るコース、それから車で回るコースといろいろなコースを作ってPRしていけばいい企画というか人寄せになるのではないか。

【秋山委員】

私も構成要素について、ここの7点がいいなと思っている。この中で気になったのは、田中委員と同じで子どもたちに板倉を愛する心を育てるということで、私は地域活動に対して無関心な若者が多いなと感じている。そのためにはどうし

たらという方策は難しいと思うのだが、昔だったらボランティア活動に参加すればいいよと、楽しいボランティアをいっぱい作ればいいよというようなことを言われたが、それが今はいいのか悪いのか分からない。それから、歴史文化なのだが、板倉を通過している上江用水、世界かんがい遺産という大きな冠をつけていただいた。ただ、世界と付くのを売りにできないかと。しかも、板倉だけではなく、妙高市、清里、三和とタッグを組んで売り出せないか。それから、用水の廻りを歩いてみると結構整備されていて、ウォーキングに適していると思う。高齢化になってきて、結構歩いている人が多いと思う。臭いにおいのする工業団地でさえ、何人も通っているので、米についても世界かんがい遺産の水を使ったおいしい米ということで、「いたくらけいと」とも繋がっていくのかなと思っている。

【吉田委員】

前回夢創會さんとかから来ていただいたときに、いろいろ説明していただいてその時に出ていたキーワードというのが、一番重複していたのが光ヶ原、次が廃校の活用、その次が特産物の活用だったかと思う。地域それぞれの課題というのものもあると思うが、それらを網羅して活性化の方向性という意味では事務局から作っていただいたこの案でいいと思う。構成要素については、下から2つ目3つ目、板倉に住み続けたいという項目と、冬季間の安心安全な暮らしについては、一番下のあらゆる人が住みやすい地域にするというところに包括されてもいいのかなという気がする。それと前回の夢創會から来ていただいたときに、それぞれ共通で持っていた、組織として共通で持っていた課題で、情報の共有化とか他のところの組織がどんなことを考えているのか掴みきれないところがあるということだったので、そこのところを2か月に1回でも3か月に1回でもいいし、一堂に会していただいて、情報を共有化する取り組みをやっていただきたいと思います。それと、活性化に向けての具体策をやっていくことになると、かなりのパワーがいると思うのだが、そうなったときに例えば専門のコーディネーターみたいな方から意見を頂くとか、相談させていただくということができればもっといいなと思う。

【長藤委員】

板倉区の地域の活性化の方向性というところからみると少しずれるのかもしれ

ないが、ここにも上がっているもので板倉区を他の27区と差別化するというようなことは少し難しいところがあるのではないかと。先ほどの皆さんの話にも出てきていたが、例えば光ヶ原というのを考えたときに、そこに留まらず県境を越えた向こう側との連携とか、今の用水の関係とかもあり、アンケートの中にも書いたが歴史的遺産の中には板倉区内だけで閉じないで清里区と一緒にしているものとか、あるいは土砂災害対策というところの高田平野東縁断層帯全体が絡むものもあるし、そういった板倉区に閉じたものだけでこれを作っているということも厳しいのではないかと。他との連携を図るという点も中には設けていった方がいいのではないかと。細かくはどういった点かということはいろいろあると思うが、そういった構成要素も入れていった方がいいのではないかと。

【平井会長】

皆さんから意見を出していただいた。今日、冒頭に事務局から説明があったとおり、次の機会ということで、今日は皆さんの意見を聞いたというかたちでこれについては一応閉めたいと考えている。また次回も引き続き今日の続きをやりたいと考えている。

【田中委員】

会長、副会長からはそういう発表はないのか。

【古川副会長】

光ヶ原、やすらぎ荘、これは外せないなと思っている。これはみんなの共通の認識と判断しているが、その上で活性化に向けてどうやるかというところだが、私は資料を見たときに漠然としているなという印象だった。そうやってまとめていくのかなという気がするが、事務局が出したこの構成でいいと判断している。先ほど小林委員からも話があったが、やはりそれらについてどう具体化していくか、これを少し急がないとダメかなと思っているが、いずれにしても3団体との意見交換も終わった。これ1回ではなく、そこら辺も含めて3団体との思っていることも一緒。だから、我々地域協議会委員も入って、そこら辺を含めて進めていくという方向性で、この7項目も含めて考えていった方が私はいいと判断している。今日も、市の7次総合計画の審議会があった。大詰めにきているが、私も午前中参加していたが、100何ページに渡って今まとめている。明日、中間の

答申をする。それらを受けて、11月に最後の審議会をする予定。それを受けて、また審議会も含めてやっていくのだろうと思うが、専門用語になってくると大変である。私等では少しついていけないと思っているが、いずれにしてもまとめなければいけないので、そこら辺は知恵を出しながら、今日で終わるわけではないので、また次回までに考えてきていただいて議論していけばいいかなと思う。

【平井会長】

今ほど話があったように、地域、板倉区の活性化の方向性と板倉区の未来を拓く観光、これが一致するものもあるし、活性化の方向性については、こういうことでよくまとめてあって、7項目あるわけだが、非常にいいのではないかと考えている。構成要素というのは、ある程度まとめなければもやもやとする部分が非常に多いので、今7項目あるのでこれを例えば4項目とか5項目とかある程度まとめていくべきだろうと考えている。それはこの次の会議でまた皆さんと意見を交わしながらやっていきたい。

続いて、6自主的審議事項 板倉区の未来を拓く観光について事務局の説明を求める。

【小池地域振興班長】

- ・資料2に基づき説明

「板倉の観光」が今後どういった形であればいいのか、観光に力を入れていた旧板倉町時代と今では時代は変わっている。「観光」をどう捉えるか、そもそもの部分から意見をいただきたい。

【平井会長】

皆さんから意見を頂きたいと思う。まずは長藤委員。

【長藤委員】

先ほどの話にもあったが、観光公社が板倉の観光といえば光ヶ原と恵心だと話していたが、確かに昔からというのはそれだけだが、それだけでは難しいと思っている。より人を集めるには新たな観光要素が必要ではないかと思っている。この間の勉強会の時に、夢創會で出した中で自転車があったと思うが、あれは夢創會と私の部会で話をした際に途中の雑談の中で私がいったことである。それでそ

の時にはなかったそういう項目が追加されてきたように私は見た。私が何でそんな話をしたかという、実は私20代の頃自転車のロードレースに結構乗っていて、三宅島とか仙台の方とか群馬の方とか、いろいろなところへ飛び歩いてレースをやっていた。板倉でそういったかたちのものをやろうとすると、平らなところを長く走るロングライドは適さないが、一番考えられるのがこの辺から光ヶ原まで行くヒルクライム、これが実は佐渡でヒルクライムレースをやっているが、それとほぼ同程度のコースになる。この辺はこういったものを企画して売り出すと、佐渡まで渡る交通費がいらぬとか、あるいはそれに伴って宿泊とか食事とかそういうことも考えられるので、そういったような新たなイベントを考えていくというのが観光の面では必要ではないか。

【吉田委員】

観光について、やっぱりさきほどから出ているように、光ヶ原、やすらぎ荘、ゑしんの里、プラスアルファを軸にして、大きな話になるがやすらぎ荘を使ってインバウンドを少人数で、実際にそれをやろうとすると旅行会社にお金を払って大変な取り組みになるが、市内ないし区内に住んでいる外国の方からそういったところを回っていただいて、SNSで母国に送ってもらう。それを見てもらって広めてもらうという方法もあるのではないか。人口が増えてくれて税金が増えたらいいが、なかなかそれも難しいかなということで、そういう観光を使ってこちらに金を落としていくという方法はどうかと。インターネットで調べたが、田舎それとインバウンドで調べると、国内でも結構成功しているところがある。外国人が何を喜んでくるかという、はさ掛けの模様、はさに稲が掛かっているとか、ただ単にカエルを見て喜んでいるとか、小学生が通学するときにランドセルを見てそれに感心している、あと、宿泊していても夜田舎だから車がほとんど走らないということでなんでこんなに静かなのだということで、EVでも全部走っているのかというようなことを言われているようである。具体的にいうと、岐阜県の古川町なのだが、そういうように成功しているところもあるのでそういうのも一つかなと思っている。

【秋山委員】

板倉には多くの観光スポットがある。大小様々だが。今はどうしても点でしか

ないがそれをうまくつなげて線にして、できればモデルコースを作ってアピールすれば、もっとお客さんが増えるのではないかと思っている。

【庄山委員】

板倉区の観光と地域の活性化は表裏一体で、同じようなものであると思っている。ただ、残念ながら私が思っているのは、光ヶ原とかゑしんの里とかいろいろあるが、それをまとめて音頭を取る組織、それを作ってやらないと、ただ単発的にやっても誰も来ない。もっと組織的にやらないとだめだなと思っている。ただ、どこが音頭を取ってやるのか、それを決めて、それから団体を寄せていろいろな話をしないといつまでたっても同じような話で終わってしまう。

【田中委員】

取り組みについて庄山委員からも話があったように、主体となって動くところがどこなのかというところを決めることが優先だと思う。私はそれはゑしんの里観光公社だと思うので、そこが中心となって動くべきだと思っているが、過去にも数年にわたり、その取り組みの話をしているが、いまだにまだ方向性がきちんと定まらないところでもあるので、そこら辺をきちんと整理すべきと思う。直接観光になるのかどうかは分からないが、私は人を引き付けるものの一つは祭りかなと思っている。ふれあいまつりが昨年規模縮小してやったが、そこそこの人間が集まったし、コロナの前までは約2,000人くらいふれあいまつりには参加、来ていただいた。これを通年で板倉の中を春夏秋冬で動いたら面白いのかなと思う。今すでに各地区で、例えば春にふきんとまつりとかやすらぎ荘では山菜まつり等をやっているし、ふれあいまつりもだし、寺野の遊雪まつり、この辺は大きくPRしながら春夏秋冬で会場をどこにするかといういろいろ問題もあると思うが、そうすると通年で呼び込めるのではないかと思う。

【下鳥委員】

いい話がたくさん出ている。委員全員に一言ずつ発言してもらうことも今回初めてではないかと思う。やはり私は高齢者パワーが一番大切ではないかと考えている。お父さんお母さんが一所懸命外へ出てお金を稼がなければいけない。残っているのは高齢者、そして孫達である。その高齢者の知恵を借りれば、そこから新しいものが生まれると思う。

【西田委員】

皆さんが言っているとおり、誰が先頭になるか。前から観光公社にお願いしているが、動きが悪い。観光公社だけに任せておくわけにはいかないのです、みんなで見直しを出し合っていくべきだ。観光といっても、なかなか観光だけで板倉は良くなっていかないなど、若者が増えてこない。ということは、1年間の無料田舎体験という事業で、学校が空いているので、それを市にお願いして住めるようにして、1年間定住して、板倉のことを勉強していただいて、1年間終わったら定住をしていただく方法を考えないと、なかなか人口も増えない。観光も減っていくという格好になるので、そこら辺も皆さんと議論していきたい。

【山本委員】

1番2番については概要の方に書かれているのでそういうことだと思う。必要な取り組みというところだが、先ほども言ったので繰り返さないが、圧倒的な情報の提供が必要だと考えている。NHKで「いい移住」という番組をやっているがご存じか。地方の方へ都会から引っ越してきて、若者が引っ越していろいろなとやるとう番組がNHKであるのだが、あの中で移住先に選ばれるところというとすでにいろいろな産業を持っていてもものすごくキラキラしている場所、それから何もなければちょっととっても面白そうだなという場所、ただ、雪の降るところはあまり行かない。

【手塚委員】

先ほどから皆さんから話があるように、旗を振ってくれる方が誰なのだろうどこなんだろう、そこが一番問題だと思うが、そこをある程度決めていただいた段階で、次のステップがあるのではないかと思う。余談になるかもしれないが、空き校舎の話で、旧寺野小学校も今年の7月いっぱいさくら園のグループホームが撤退したということで、1ユニットで9部屋が空いていて、すぐにでも入れる状況。なので、地区に限らず、板倉区内もそうだが高齢の方が自分の家の雪掘りができないという方については、そこにはエレベーターもついているので、部屋に入って一冬過ごしてもらって、また春になったら自分の家に戻っていくと、そのようなことを寺野に限らず、山部に然り、豊原に然りそうだが、そのようなことも考えていったらどうかと思っている。

【植木委員】

私は子どもの頃から親と一緒に働くのが好きであった。今の子どもたちはとにかく祭りだ遊びだ、みんなそれをやってあげないとダメなんじゃないかと思っているが、私は親に褒められるのが大好きで、半日手伝ってそのあとは遊ぼうよとかたちが好きだった。今うちの長男もそうだが、半日仕事をして、お昼休みになると好きなお酒を飲んで2人で温泉に行く。板倉は温泉行くにも近いし、なにかするにもいいし、前はボードをやっていたのでボードもよかったし、山登るのも好きだったので、そういう素敵な暮らしを教えてあげるとよい。長野に野菜の100円均一の店がある。そこに何十年も通っているが結構おいしいし、長野は果物もたくさん買っても安い。そのようなかたちで、板倉にはないものがいっぱいある。板倉は米といっても、ふるさと納税で上越市でもう米を出している。少し出遅れていて、私は飴地蔵のお札でも入れてふるさと納税で出したら、飴地蔵に結構遠くからお参りに来るので、いい企画だなと思ったら、テレビを見ていたら、ふるさと納税は上越市でも米を出していた。そこへきて、今回の新潟の第一はやはり米だった。だからもったいないな、一足遅れたなと思った。ぜひ役所の方をお願いしたい。先頭に立っていろいろ調査してふるさと納税で売れるものをみんなで開発して欲しい。

【小林委員】

板倉区の観光振興、あるいはイベント、やるには永続的にしっかり発展させていかないと交流人口が増えてこない。先ほどから出ているとおり、前の意見交換会でそうだが、しっかりした組織の一本化、土台が必要だと思う。過去からの経緯があるが、しっかりそういったところに課題が多いかもしれないが首を突っ込まないと板倉の発展はないと思う。それと先ほど申したとおり、板倉には特産物とか農産物があるわけである。あるいは文化遺産、そういった発信ができる核となる施設がやはり私は畠しんの里だと考えているので、諸先輩方が20年以上前にしっかりとそういった地域づくりについて検討して考えたわけなので、そういったものに少し付加価値を付け加えて、そこから板倉区を発信できるものをやれば、例えば道の駅的なものを作った方がいいのではないか。それにはさっき言ったように組織の課題がしっかり、時間を掛けてでも合意形成ができるように努

めていく必要があると思う。

【池田委員】

やすらぎ荘でグランピングをやっているの、あそこでキャンプ場とかきれいにしていく必要があると思う。キャンプ場にお風呂がある所があまりない。風呂に入って、大広間に横になる人がいるが、そうではなくテントで横になるということで、宿泊してもいい、体にいいので、ぜひ実現して、集客はどれくらいあるか分からないが、いいと思う。2点目に、光ヶ原なのだが、グリーンパル高原荘の奥の草刈りに行ったりするのだが、あそこはキャンプ場としては少しよくないため、下の方のハウスにキャンプ場を作ってもらって、テントを張ってキャンプをやっているところを写真で撮って、ポスターを作ってもらえればいいと思う。新幹線の駅に光ヶ原のポスターを何回も見たが、そば畑とかそういうのもいいが、そこにテントを張った写真を張ってあげればいい。3点目、自転車の話もしたが、長藤委員も言っていたが、有名になると全国から自転車乗りが来る。上越の関田峠ということで有名になると全国から来る。そしてこの駐車場のところに車を停めてここから行くとかそういうことになれば個々の駐車場も手狭になるかもしれない。

【古川副会長】

来月区内の研修がある。いろいろなコースがあると思うが、そこら辺も含めてどういうコースがあるかどうかも含めて、あるいは光ヶ原も含めて少し考えた方がいいかなと思う。あれもこれもではなく、単発でやるのではなく通年通してみるといのも考えた方がいいと思う。人が来るわけだが、来て何もなくてそれではダメなので、そばの提供も含めて、あるいは土産品も含めて少し考えた方がいいかなと思う。それをまず区内の皆さんも含めて、誰がやるのかということになるわけだが、やはり私も公社だと思う。ここを中心にならざるを得ない。したがって、3団体も大事だが、どう動かしていくか考えていった方がいいのではないかなと思う。

【平井会長】

自主的審議事項の板倉区の未来を切り開く観光が、これについては9月9日に勉強会を行い、ゑしんの里観光公社、まちづくり振興会そして夢創會の3組織と

のと勉強会を実施した。各組織とも立派に勉強され発表されたわけだが、特に私はふしんの里観光公社が窓口ということもあるが、これについては歴史、自然食、まつりについて列記されていた、それも具体的なことも載っていたということで、今後については24事業を提案したいと、概算ではあるがトータルで570万円くらいだというような具体的な話も合った。ただし、組織として人材が少ない、9名で運営しているという苦言もあった。まちづくり振興会については、いろいろなイメージ作りをやっているということで、最後に結論としては9月9日現在は方向性が定まっていないという話をされていた。それから夢創會についても、考えられる課題というのは資料どおり考えていたけれどなかなかこれというような結論はもらっていないが、いずれにしても時間がないというところで合って、1回目の勉強会としては正解だったかなと思っている。これについても、勉強会、会議の後に皆さんの意見を聞きながらまとめていきたいと思っている。

【古川副会長】

・挨拶

【米川次長】

以上で、第10回板倉区地域協議会を終了する。

9 問合せ先

板倉区総合事務所 総務・地域振興グループ

TEL：0255-78-2141（内線123）

MAIL：itakura-ku@city.joetsu.lg.jp

10 その他

別添の会議資料もあわせてご覧ください。